

# 文部科学広報

文部科学省 編集



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

特集

## 令和2年度文部科学白書

Monthly Line Up

「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界遺産に

社会教育士応援大使に村井美樹さんが就任～8月19(木)に任命式を実施～

第19回21世紀出生児縦断調査(平成13年出生児)の結果について



## 特集

14      11      7

3

第19回21世紀出生児縦断調査（平成13年出生児）の結果について  
文部科学省総合教育政策局調査企画課

社会教育士応援大使に村井美樹さんが就任  
8月19日（木）に任命式を実施  
文部科学省総合教育政策局地域学習推進課

「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界遺産に  
文化庁文化資源活用課 文化遺産国際協力室

文部科学省総合教育政策局政策課

## 令和2年度文部科学白書



特集

# 令和2年度文部科学白書

文部科学省では、教育、科学技術・学術、スポーツ、文化芸術にわたる文部科学省全体の施策を広く国民に紹介することを目的とし、文部科学白書を毎年刊行しています。このたび、令和2年度文部科学白書を公表しましたので、その概要を紹介いたします。全文は、文部科学省ウェブサイトに掲載されていますので、是非御覧ください。

文部科学省総合教育政策局政策課

【令和2年度文部科学白書ウェブサイト】  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/html/hpab202001/1420041\\_00009.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab202001/1420041_00009.htm)



文部科学省では、令和3年7月に、令和2年度文部科学白書を公表しました。構成は次のとおりとなっています。

## 第1部 特集

特集1 新型コロナウイルス感染症禍における文部科学省の取組

特集2 「令和の日本型学校教育」の構築を目指す

特集3 研究力向上のための若手研究者への支援

第2部 文教・科学技術施策の動向と展開

以下では、令和2年度文部科学白書の概要について紹介しますが、全文は上記のとおり文部科学省ウェブサイトに記載されていますので、是非御覧ください。



## 特集1 新型コロナウイルス感染症禍における文部科学省の取組

新型コロナウイルス感染症については、我が国において令和2年1月15日に最初の感染者が確認され、3年5月上旬現在、60万人を超える感染者、1万人を超える死者が確認されており、多大なる被害を及ぼしてきましたが、政府としては、社会経済活動と感染拡大防止の両立に向けた取組を進めてきました。その中でも特に、文部科学省が担う教育や科学技術イノベーション、スポーツ及び



フィルム付きのパーテーションを用いる工夫の上、音楽大学において対面授業を実施している様子 (写真提供：エリザベト音楽大学)

文化芸術の振興は、我が国の未来を切り拓く取組の中核であり、このコロナ禍においても、決して歩みを止めることが許されないものです。

こうした決意の下、文部科学省としては、児童生徒の「学びの保障」、経済的な影響を受けている学生等への支援などの教育関係の取組、新型コロナウイルス感染症及び将来の感染症対策に貢献する研究開発への支援、中止や延期等となった様々な文化・スポーツイベント再開への経済的な支援などを行ってきました。本特集においては、これらの取組をはじめとして、新型コロナウイルス感染症禍における文部科学省の取組につき、総合的に紹介しています。

特集2

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

Society 5.0時代の到来など社会の在り方そのものがこれまでとは「非連続」といえるほど劇的に変わる状況が生じつつあるなか、変化し続ける社会状況を見据え、初等中等教育の現状及び課題を踏まえてこれからの初等中等教育の在り方について総合的に検討するため、平成31年4月17日に開催された中央教育審議会総会において、文部科学大臣から、「新しい時代の初等中等教育の在り方」について諮問を行いました。諮問の主な内容は、①新時代に対応した義務教育の在り方、②新時代に対応した高等学校教育の在り方、③増加する外国人児童生徒等への教育の在り方、④これからの時代に応じた教師の在り方や教育環境の整備等多岐にわたる内容となっており、中央教育審議会初等中等教育分科会等において、諮問全体について横断的に審議が進められました。約1年9か月 にわたる審議を踏まえ、令和3年1月26日に「令和の日本型学校教育」の構築を目指して、全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現（答申）」が取りまとめられました。

本特集においてはこれからの初等中等教育の目指すべき改革の方向性と具体的な方策について、答申の内容を中心に、その周知策も含めて紹介しています。

特集3

研究力向上のための若手研究者への支援

我が国の研究力強化のためには、研究現場の重要な担い手であり、将来の科学技術・イノベーションを牽引していく若手研究者を支援していくことが必要です。そのため、博士後期課程学生を含む若手研究者が、自らの知的好奇心に基づき、野心的・挑戦的な研究に専念できる環境の整備を進めることが、非常に重要な課題となっています。

そこで、文部科学省では、令和3年度に、若手研究者への支援を含めた世界レベルでの研究基盤構築のための10兆円規模の大学ファンドの創設や、それに先駆けた博士後期課程学生支援の抜本的な拡充を行うことを決定しました。

本特集では、これらの動きを含めた我が国の若手研究者支援の全体像について、若手研究者を取り巻く現状、若手研究者を支援するために行っている

文部科学省  
博士を目指す学生の皆さんへ

現在、新型コロナウイルス感染症の拡大という誰も経験したことのない困難な状況が続いています。感染症予防のため、自由に大学を利用できず、思うように研究活動などが出来ない中、博士を目指す学生の皆さんが様々な工夫をこらして研究に励まれていることには心から敬意を表します。

科学研究・イノベーションを担うのは「人」です。特に博士を目指す学生の皆さんは、将来、我が国を牽引する重要な人材です。しかしながら、皆さんが経済的な不安やキャリアパスの不安から、博士課程への進学を断念する、あるいは研究活動にじっくり取り組めないという問題を鑑み、新型コロナウイルスの感染症拡大がさらに追い打ちをかけているこの状況は、看過できない深刻な問題だと考えています。

政府では、博士課程学生の研究に支障のないよう奨学金等が支援されています。我が国で、世界レベルの研究基盤を構築する大学ファンドに加盟する形で、博士を目指す皆さんへの経済的支援を拡大します。具体的には、自由で挑戦的・協働的な研究を推進する大学への支援等を通じて、より多くの博士課程学生の方々に、研究費や生活費相当額を支給することを予定しています。

これらの取組を通じて、「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ」の目標額である約15,000人への支援の達成を目指します。また、高等教育、科学研究及び産業政策の全体を見直し、11（リサーチ・フロンティア）支援の促進など総合的な施策を講ずるとにより、大学院への一貫した切れ目のない支援をしっかりと行います。

ぜひともじっくりと時間を確保して、思う存分研究に取り組んでください。

これから我が国を背負って立つ皆さんが、経済的な不安を抱えず安心して博士課程へ進学できるよう、これまで以上に強力に博士課程の学生の皆さんを支援してまいります。そして、イノベーションの創出に向けて、博士が失くさ活躍できる社会の実現に向けて最大限取り組んでいきます。

令和2年12月15日  
文部科学大臣 萩生田 光一

博士課程を目指す学生に向けた大臣メッセージ

いる主な施策、若手研究者支援に関する今後の展望を取り上げています。

## 【第2部】 文教・科学技術施策の 動向と展開

第2部は文教・科学技術施策全般の年次報告となっています。以下では、その概要を紹介します。

### ○第1章 教育再生の着実な推進

政府において重要課題とされている「教育再生」の実現に向け、中央教育審議会、教育再生実行会議、国立教育政策研究所が実施している取組につき、教育再生実行会議第12次提言（令和3年6月）などの最新の動向を含めて紹介しています。

### ○第2章 東日本大震災からの復興・創生の進展

東日本大震災から10年が経過しましたが、文部科学省において復興・創生を目指して実施している、文教施設の復旧や就学支援、児童生徒の心のケア、復興を支える人材の育成や大学・研究所等を活用した地域の再生、原子力損害賠償の円滑化などの取組につき紹介しています。

### ○第3章 生涯学習社会の実現

文部科学省では、生涯にわたる一人一人の「可能性」と「チャンス」の最大化に向け、人生100年時代を見据えた生涯学習の推進に取り組

んでいます。第3章では、リカレント教育の充実に向けた最新の動向、地域課題の解決など住民の学びを支援する「社会教育士」（令和2年4月スタート）などの取組を紹介しています。



社会教育士の活躍イメージ

### ○第4章 初等中等教育の充実

Society 5.0時代の到来などを踏まえ、初等中等教育段階においては、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びを実現していくことが重要です。こうした観点から、第4章では、小学校35人学級の計画的な整備、子供たちを支える教師の働き方改革や、教師の資質能力向上のための施策についても紹介しています。

## ■掲載取組例

#### 電話受付時間の短縮

【取組】

【効果】

#### 欠席連絡をデジタル化する

【取組】

【効果】

☑留守番電話・音声ガイダンスを導入し、放課後の電話対応を応答メッセージによる対応に変更した。  
 ☑Webアンケートフォームで保護者からの欠席連絡や遅刻の連絡を行うことにより、電話による業務の中断をなくした。

## ■事例集の読み方

#### 事例集の読み方

収録されている取組は、以下のような並びで構成されています。

1. 取組名
2. 取組内容
3. 効果
4. インタビュー

## ■分野一覧

- 学習指導
- 学習評価
- 生徒指導
- 進路指導
- 特別活動
- 部活動
- 郊外での活動
- 出欠・保険情報管理
- 保護者対応
- 教務
- 調査
- 施設管理
- 校務分掌
- 教職員間のやりとり・会議
- 研修・研究
- 会計業務
- 服務
- 業務分担の見直し
- 執務時間の創出
- 外部人材の確保・活用

#### 全国の学校における働き方改革事例集 取組一覧

| 分野   | 取組名 | 効果  |
|------|-----|-----|
| 学習指導 | ... | ... |
|      | ... | ... |
|      | ... | ... |
|      | ... | ... |
| 学習評価 | ... | ... |
|      | ... | ... |
|      | ... | ... |
|      | ... | ... |
| 生徒指導 | ... | ... |
|      | ... | ... |
|      | ... | ... |
|      | ... | ... |

全国の学校における働き方改革事例集

○第5章 高等教育の充実

様々な社会構造の変化が予測される中、高等教育機関は国民や社会からの期待に応える改革を主体的に実行することが必要であり、加えて、子供たちが経済的事情により進学を断念することのないようにすることが重要です。このような観点から、第5章では、大学入試改革の動向、地域に開かれた高等教育の在り方、学生の経済的負担軽減策などの施策について紹介しています。

○第6章 私立学校の振興

多様化する社会のニーズに応じた特色ある教育研究の推進が行われている私立学校に関し、学校法人の更なるガバナンスの発揮に向けた検討、学校法人に係る税制改正の最新の動向などを紹介しています。

○第7章 科学技術・学術政策の総合的推進

我が国の科学技術行政の推進の基礎となる、「第6期科学技術・イノベーション基本計画」（令和3年3月）について記載するほか、スーパーコンピュータ「富岳」など研究開発の推進にかかる取組についても紹介しています。

○第8章 スポーツ立国の実現

1年延期となった2020年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会について、国立競技場等の新型コロナウイルス感染症対策をはじめとした安全・安心な大会の成功に向けた取組のほか第3期スポーツ基本計画の検討などのスポーツ施策についても紹介しています。

○第9章 文化芸術立国の実現

2020年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会に向けた「日本博」を始めとする文化プログラムや、「文化財保護法の一部を改正する法律」及び「著作権法の一部を改正する法律」の成立、「授業目的公衆送信補償金制度」の本格実施など、最新の制度改正等の動向などについて紹介しています。

○第10章 国際交流・協力の充実

我が国の大学等の国際化の推進のための留学生交流の促進や、「持続可能な開発目標（SDGs）」の実現に向けた諸外国政府、国際機関と連携した取組の実施や、「持続可能な開発のための教育（ESD）」の取組などを紹介しています。

○第11章 ICTの活用の推進

今や日常のものとなったICT活用について、「GIGAスクール構想」を通じた1人1台環境の実現、1人1台環境を活かした、デジタルならではの学びを進めるための先端技術や教育データの利活用、情報を正しく安全に利用するための情報モラル教育の充実などについて紹介しています。

○第12章 安全・安心で質の高い学校施設の整備

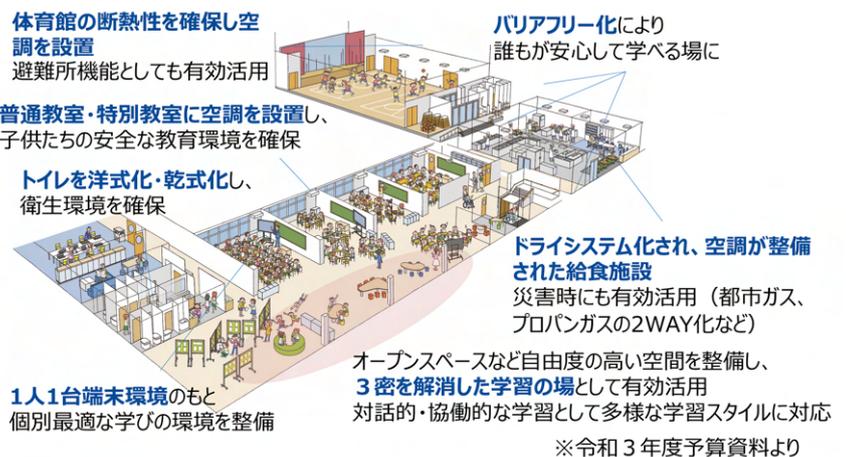
老朽化した学校施設の長寿命化対策の推進、1人1台端末環境を踏まえた新しい時代の学びを支える学校施設の在り方の検討、今後の国立大学等施設整備の方向性についてまとめた「第5次国立大学法人等施設整備5か年計画」（令和3年3月）などについて紹介しています。

○第13章 防災・減災対策の充実

学校施設の防災機能強化や防災教育の充実などの災害予防、発災後の災害応急対策や災害復旧の支援、防災に関する研究開発の推進など、防災・減災対策について紹介しています。

○第14章 文部科学省改革、及び行政改革・政策立案機能強化に向けた取組

国民に信頼される新しい文部科学省の創生に向けた文部科学省改革の取組や、EBPMの実践を含む政策推進・評価の取組などについて紹介しています。



新しい時代の学びを支える学校施設のイメージ

# 「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界遺産に

文化庁文化資源活用課 文化遺産国際協力室

第44回世界遺産委員会拡大大会において、「北海道・北東北の縄文遺跡群」が、我が国25件目（文化遺産としては20件目）の世界遺産に登録されました。

## 第44回世界遺産委員会拡大大会

2020年に開催予定であった第44回ユネスコ世界遺産委員会は、新型コロナウイルス感染症拡大を受け延期となりましたが、本年7月16日（31日に2020年及び2021年の2年分の議題を審議する、拡大大会という形で開催されました。中国の福州が主会場ではありませんが、初めてオンライン形式（パリ時間）での開催となりました。

新規案件の推薦（既登録資産の拡張含む）については、2年分で計45件の推薦書が提出され、事前に取り下げられた案件を除く39件の審議が行われました。審議の結果、日本の推薦案件である「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」を含む自然遺産5件、「北海道・北東北の縄文遺跡群」を含む文化遺産29件の計34件が新規登録されました。

た。今回の登録により、日本の世界遺産は計25件（自然遺産5件、文化遺産20件）となりました。

一方で、危機遺産リストに記載されていたイギリスの文化遺産「リヴァプール―海商都市」は、近年の開発による影響が改善されず顕著な普遍的価値が失われたとして、世界遺産一覧表から抹消されました。世界遺産の抹消事例は、オマーンの自然遺産「アラビアオリックスの保護区」、ドイツの文化遺産「ドレスデン・エルベ渓谷」に続き3件目です。これにより、世界遺産は計1154件（複合遺産39件、自然遺産218件、文化遺産897件）となりました。

以下では、新たに世界文化遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」について紹介します。

## 農耕以前の人類の生活の在り方を示す考古遺跡

「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、北東アジアにおいて1万年以上の長期間にわたり継続した採集・漁労・狩猟による定住の開始、発展、成熟の過程及び精神文化の発達をよく表しており、農耕以前における人類の生活の在り方を顕著に示しています。

本資産が位置する北海道・北東北は、山地、丘陵、平地、低地など、変化に富んだ地形であり、内湾や湖沼及び水量豊富な河川も形成されています。本資産の属する縄文時代には、ブナやミズナラ、クリ、クルミなどで構成される冷温帯落葉広葉樹（北方ブナ帯）の森林が広がっていました。海洋では暖流と寒流とが交差することによって豊かな漁場が生まれ、サケやマスなどの回遊魚が遡

**「北海道・北東北の縄文遺跡群」  
構成資産紹介**

本資産は、北海道・青森県・岩手県・秋田県に

上するなど、恵まれた環境にありました。人々は、この環境の下で育まれた豊かな資源を管理しながら利用し、食料を安定して確保するとともに、採集・漁労・狩猟を基盤として約15,000年前から土器を使用して、定住を開始しました。その後、気候変動及びそれによる海面の上昇・下降、火山噴火などの環境の変化に巧みに対応しつつ、集落を形成し、発展させ、成熟させました。本資産はその変遷過程を、物証をもって余すことなく説明することができます。

さらに、墓地、環状列石、貝塚、盛土遺構等の祭祀的な空間や構造物を構築・発展させ、母性を表現したとされる土偶に見られるような独特の精神文化を育み、成熟した定住を営みました。

このように本資産は、農耕に移行することなく採集・漁労・狩猟による生活を続けながら集落を発展させ、特異な祭祀・儀礼空間を築いてきた人々の、非常にユニークな生活と信仰、生業の多様な形態を今に伝えています。とりわけ、人類の生活上、狩猟・採集社会は移動生活、農耕社会以降は定住生活というのが一般ですが、こと縄文の人々は豊富な森林・水産資源を背景に、狩猟採集を基盤とする定住生活を営んだという点で、人類史の「常識」を覆す稀有な例と言えます。

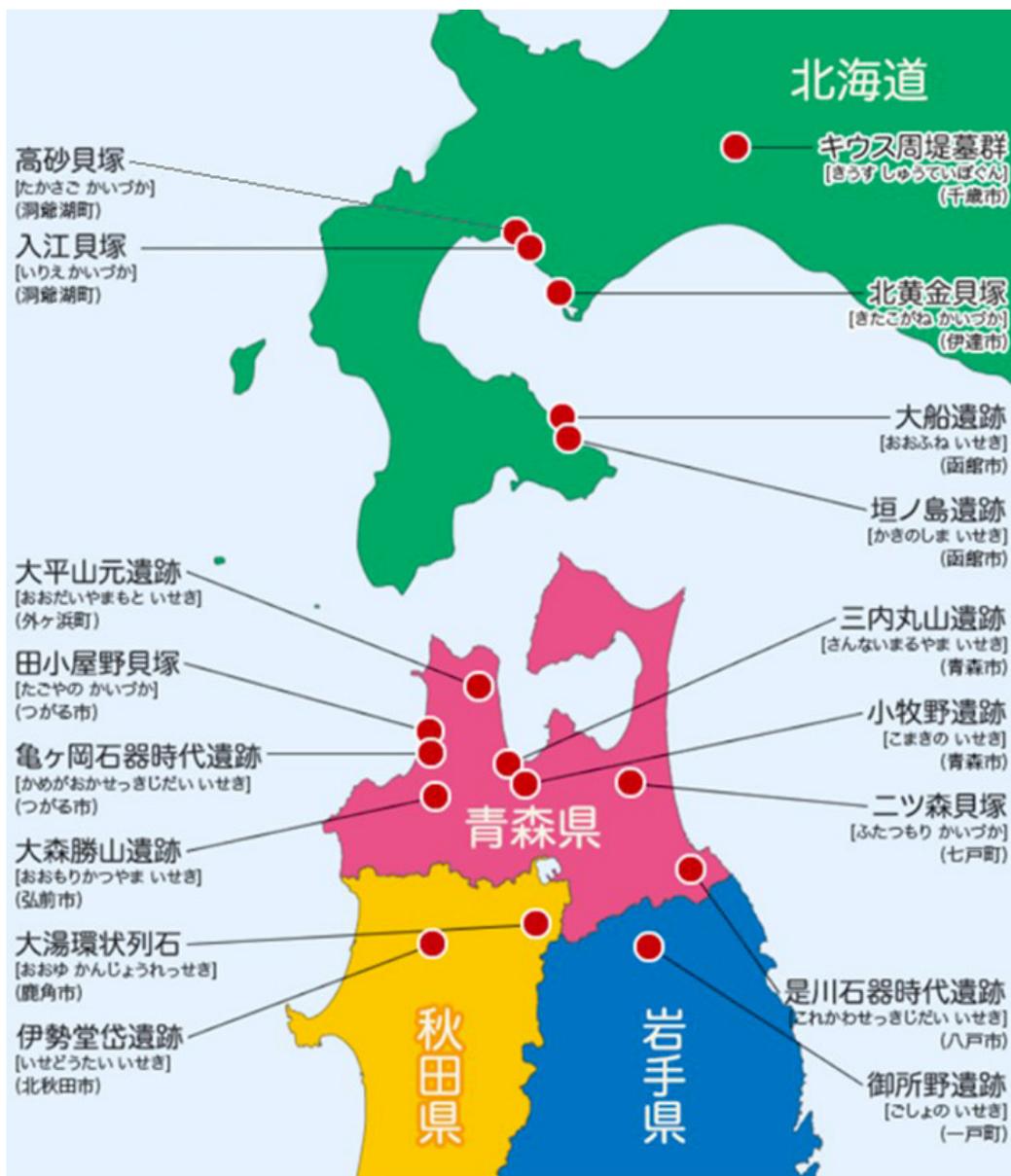


図1 「北海道・北東北の縄文遺跡群」構成資産位置図

位置する17の考古遺跡から構成されます(図1)。1万年以上という長期間にわたり存続した本資産は、定住の開始・発展・成熟の段階によって6つのステージ(3つのメインステージと、それぞれ2つのサブステージ)に分類され、17の構成資産はそのいずれかのステージに位置付けられます。

**ステージIa..  
定住の開始・居住地の形成**

大平山元遺跡(青森県外ヶ浜町)では、北東アジアで最古級の約15,000年前の土器が、石

鏃及び旧石器時代の特徴を持つ石器群とともに出土しています。重くて壊れやすく持ち運びに適さない土器の出現は、定住の開始を示すものと考えられます。石鏃は弓矢の出現を示しており、狩猟対象獣が遊動的な大型哺乳類から中小型の哺乳類に変化したことがうかがえます。竪穴建物などの本格的な居住施設は伴わないものの、石器を製作した場所や調理に用いた土器片の広がりが確認されています。当初の居住地は、食料資源および石器の原料が得やすい河岸段丘上の高台に立地しています。

## ステージIb..

### 定住の開始・集落の成立

約11,500年前からの温暖化に伴い、地域では生物多様性に富む北方ブナ帯の森林が平野部や海岸線まで広がり、海域では寒流と暖流が交差することで豊かな漁場が育まれました。食料資源が安定したことで、長期間の定住が可能となり、集落数が増加します。

垣ノ島遺跡（北海道函館市）では、竪穴建物による居住域、大型の合葬墓（写真1）と単独墓からなる墓域が形成され、日常と非日常の空間が分離したことを示しています。墓には、この地域に特徴的な幼児の足形を押し付けた粘土版が副葬されることがあり、当時の葬制や精神性を示しています。



写真1 垣ノ島遺跡 大型土坑墓（出典：JOMON ARCHIVES（函館市教育委員会撮影））

## ステージIIa..

### 定住の発展・集落施設の多様化

気候が安定化したことにより、集落は海岸部や湖沼地帯、河川域に展開するようになります。集落には貝塚や捨て場、貯蔵穴など定住を安定させるための多様な施設が形成されるようになります。

北黄金貝塚（北海道伊達市）や二ツ森貝塚（青



写真2 三内丸山遺跡（出典：JOMON ARCHIVES）

森県七戸町）では、貝塚の地点や層位により堆積物の組成に違いが見られ、海進・海退による環境変化に適応した人々の生活を知ることが出来ます。他にも動物の骨や角でつくられた骨角器が出土しており、貝塚は祭祀場としての役割も持っていたと考えられます。田小屋野貝塚（青森県つがる市）では、ベンケイガイ製の貝輪（腕輪）の未製品が多数出土し、集落内で貝輪の製作が行われていたことが明らかになっています。

## ステージⅡb.. 定住の発展・拠点集落の出現

時代が進むと、多様な施設を持つ集落が、一定の地域の中核的な役割を担う拠点集落となり、大規模化していく様子が見られます。特に、長期間かけて形成される盛土遺構が発達し、墓も組石遺構や小型の環状列石を伴うものが見られるようになります。多様な祭祀・儀礼の様相がうかがわれます。

三内丸山遺跡（青森県青森市）（写真2）は、長期間継続した大規模な拠点集落で、盛土遺構から膨大な量の土器・石器、土偶などの祭祀用の道具が出土しています。大船遺跡（北海道函館市）では、盛土遺構を挟むように貯蔵施設や墓域が配置され、祭祀場を軸とした集落形成の在り方が確認されます。御所野遺跡（岩手県一戸町）では、盛土遺構から焼けた動物骨、クリ・トチノミなどの堅果類が出土し、火を用いた祭祀が繰り返行われたと考えられます。

## ステージⅢa.. 定住の成熟・共同祭祀場と墓地の進出

紀元前2,200年頃の一時的な冷涼化の影響により、集落規模や居住環境が大きく変化します。集落は小規模化するとともに分散し、これまで生活空間としての利用が少なかった丘陵地や山地にも人々が進出していきます。分散化した集落の結びつき（紐帯）を強めるため、共通の祭祀・儀礼

の場として墓域を伴う環状列石が構築されるようになりました。

環状列石は、近隣に集落遺跡が見られないため、地域内の複数の集落によって構築・維持・管理されたと考えられます。単独で複雑な配石遺構を持つ小牧野遺跡（青森県青森市）、多量の祭祀具を伴う4つの環状列石を持つ伊勢堂岱遺跡（秋田県北秋田市）、2つの環状列石の周囲に掘立柱建物跡や貯蔵穴、土坑墓などが同心円状に配置される大湯環状列石（秋田県鹿角市）（写真3）など、環状列石には多様な在り方が認められます。入江貝塚（北海道洞爺湖町）は、祭祀場や墓地を支えた集落の典型として捉えられます。

## ステージⅢb.. 定住の成熟・祭祀場と墓地の分離

さらに時代が進むと、共同の祭祀・儀礼の場から墓地が独立して形成されるようになり、葬送に関する儀礼が特化する様相が見られます。

北海道では、複数の墓を大規模な土手で囲む周堤墓（キウス周堤墓群（北海道千歳市））が発達します。環状列石（大森勝山遺跡（青森県弘前市））も引き続き構築されますが、墓域とは別に形成されます。高砂貝塚（北海道洞爺湖町）は、土偶や供献土器を伴う土坑墓と配石遺構で構成される共同墓地、亀ヶ岡石器時代遺跡（青森県つがる市）は、玉製品の副葬や赤色顔料の散布が見られる土坑墓と、土偶や漆製品など多彩な祭祀遺物が出土する祭祀場（捨て場）からなる共同墓地です。是川石

器時代遺跡（青森県八戸市）は、竪穴建物、捨て場、水場など多様な施設を伴う集落遺跡です。精巧な土器や土偶をはじめ、弓や櫛、腕輪、容器などの漆製品が多数出土し、高い精神性と優れた工芸技術を知ることができます。



写真3 大湯環状列石（出典：JOMON ARCHIVES）

# 社会教育士応援大使に村井美樹さんが就任

8月19日(木)に任命式を実施

文部科学省総合教育政策局地域学習推進課

社会教育士制度をより多くの人に知っていただき、広く活用していただくため、令和3年8月19日(木)、俳優・タレントの村井美樹さんを社会教育士応援大使に任命しました。

## 社会教育士応援大使任命式

文部科学省では、社会教育の専門的知識やコーディネート能力等を習得し、教育委員会のみならず、環境や福祉、まちづくり等の社会の多様な分野における学習活動の支援を通じて、人づくりや地域づくりに携わる「社会教育士」制度を令和2年度からスタートさせ、地域コミュニティの活性化を推進しています。

社会教育士制度をより多くの人に知っていただき、広く活用していただくため、令和3年8月19日(木)、俳優・タレントの村井美樹さんを社会教育士応援大使として萩生田文部科学大臣より任命し、同日、文部科学省大臣室において、社会教育士応援大使の任命式を実施しました。



社会教育士応援大使任命式

任命式では、萩生田文部科学大臣が挨拶を行い、学びを通じた「ひとづくり」・「つながりづくり」・「地域づくり」の実現に向け、社会教育士の活躍を促進する取組を進めていることを説明し、テレビ番組など幅広い分野で活躍されている村井美樹さんのお力をお借りすることで、より効果的かつ強力に、今後の活躍が期待される社会教育士の活動内容を発信していきたいと話しました。

また、村井さんについて、「社会教育主事養成課程の修了者で、学芸員の有資格者であり、また、子供の読書キャンペーンにおける『子供たちへのおすすめ本の紹介』にも協力をいただくなど、社会教育に関する見識を備えた方である」と紹介し、「今後、様々な場面でお力を貸していただきたい」と述べました。

続いて、萩生田文部科学大臣から任命証を交付された村井さんは就任の挨拶を行い、「このよう



社会教育士応援大使任命式 記念撮影 (注 写真撮影時のみマスクを外しております)

な大事なお仕事を任せていただき大変光栄に思います。もう20年ほど前になりますが大学時代に社会教育を学びました。その時と今と比べると、より切実なものとして社会教育が必要とされてきていると感じています。その理由の一つとしてはやはり東日本大震災や西日本豪雨などの大きな災害があると思っています。日本は災害が多い国です。今も豪雨で多くの方々が被害に遭われています。大きな災害においては、ハード面だけでなく、最終的にはソフト面、地域の人たちの助け合いや支え合いがなければそれを乗り越えていくことはできません。こういった人と人とのつながりの土壌

社会教育士応援大使には、社会教育士制度をより多くの人に知っていただき、広く活用していただくため、広報やイベントに協力をいただく予定です。また、社会教育の振興等に関わる文部科学省の様々な取組も応援していただく予定です。

任命式同日、文部科学省で開催した「こども霞が関見学デー」において、社会教育士応援大使の活動の一環として、実地プログラムを紹介する動画撮影に出演・協力をいただきました。

今後も、地域の公民館や図書館など社会教育・生涯学習に関する様々なイベントへの参加や、活動の取材など広報活動に協力いただく予定です。

### 今後の活動について

を作っていくのが社会教育であり、私は社会教育がこれから先の日本のライフラインになると考えています。社会教育士制度が新しくできたことで、防災、福祉、子育て、多文化共生、まちづくりなど幅広い分野でより実践的に社会教育活動を行えるようになりました。私も応援大使として、もう一度社会教育を学びなおし、発信していくことでみなさまに社会教育の大切さをお伝えしていきたいと考えています。生きることは学ぶことです。私もまだまだ学びの途中ですけれども精一杯努めさせていただきます。」と抱負を語りました。



こども霞ヶ関見学デーの様

### 村井美樹さんのプロフィール

俳優・タレント 出身地：京都府 早稲田大学教育学部を卒業

テレビ番組のコメントーターやレポーター、また、クイズ番組や漢字に強い高学歴知性派タレントとして活躍。鉄道ファン・歴史好きで旅番組や歴史番組にも多数出演。

社会教育主事養成課程の修了者。学芸員有資格者。

## 社会教育士とは？

社会教育法には、「社会教育主事」という、社会教育を行う者に対する専門的技術的な助言・指導に当たる専門的教職員の制度があり、教育委員会事務局に必ず置くこととされています。ただ、社会教育主事になるための講習や養成課程を修了しても、都道府県・市町村教育委員会から「社会

## 地域コミュニティの活性化

～学びを通じた人づくり・つながりづくり・地域づくり～



教育主事」として発令されなければ、「社会教育主事」とは名乗ることはできません。

社会教育士とは、この社会教育主事になるための講習や養成課程の修了者に与えられる「称号」で、平成30年2月の社会教育主事講習等規程（省令）の一部改正により、令和2年4月からスタートしました。

この背景として、社会教育主事が人づくりや地域づくりの中核的な役割を担うことができるよう、その職務遂行に必要な基礎的な資質・能力である①コーディネート能力、②ファシリテーション能力、③プレゼンテーション能力等が養成されるように講習等の科目の改善を図るため省令を改正し、その際、講習等における学習成果が広く社会における教育活動に生かされるように、講習等の修了者は「社会教育士」と称することができることにしました。

社会教育士には、社会教育主事講習や養成課程で習得したコーディネート能力、ファシリテーション能力、プレゼンテーション能力等を発揮して、社会教育行政のみならず、環境や福祉、まちづくり等の社会の多様な分野における学習活動の支援を通じて、人づくりや地域づくりに携わり、地域コミュニティの活性化の推進を担う中心的な役割が期待されています。

## 社会教育士特設サイト

文部科学省では、PR動画やマンガデザインに

よって社会教育士について、分かりやすく説明した特設サイトを本年2月に開設しました。

サイト内の「活躍する社会教育士」では、様々な場面で活躍する社会教育士を動画等で紹介しています。

また、4月には社会教育士noteを開設し、様々な角度から社会教育士の活動を発信しています。

# 第19回21世紀出生児縦断調査（平成13年出生児）の結果について

文部科学省総合教育政策局調査企画課

このたび、「21世紀出生児縦断調査（平成13年出生児）」の第19回（令和2年）の結果を取りまとめ、8月10日に公表しました。本調査は、厚生労働省が2001年（平成13年）から実施していた調査を第16回（平成29年）から引き継いだものです。

## 調査の概要

- (1) 調査の目的
- 「21世紀出生児縦断調査（平成13年出生児）」は、2001年（平成13年）に出生した子の実態及び経年変化の状況を継続的に観察することにより、教育に関する国の諸施策を検討・立案するための基礎資料を得るため、厚生労働省が2001年（平成13年）から実施していた調査を文部科学省が第16回（平成29年）から引き継いだものです。同一客体を対象に学校教育から就業に至るまでを毎年調査することにより、出生時からの縦断データを整備することを目的としています。
- (2) 調査対象

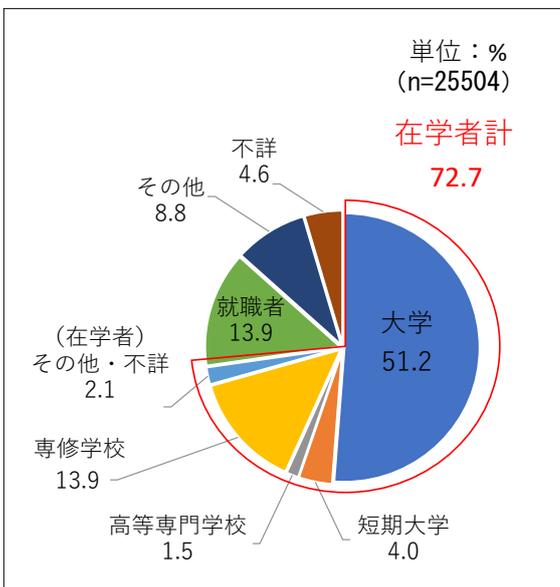
全国の2001年（平成13年）に出生した子供のうち、1月10日～17日の間に出生した子（1月生）及び7月10日～17日の間に出生した子（7月生）を調査対象としています。

今回は第19回目の調査であり、対象者の年齢は19歳です。回答者数は2万5504名でした。

- (3) 調査時期
- 1月生については令和2年2月28日から4月12日の間に実施し、7月生については令和2年7月14日から9月22日の間に実施しました。
- (4) 調査事項
- 対象者本人及びその保護者に対して次の項目を調査しました。
- 子供：現在の状況、家族の状況、将来（進路等）等  
保護者：父母の就業状況 等

## 調査結果の概要

○調査対象者の現在の状況（図1）



### 調査対象者の現在の状況

- (1) 対象者は調査時点で19歳であり、在学者は72・7%、就職者は13・9%となっています。(図1)
- (2) 4年制大学の在学者は対象者全体の5割以上となっています。(図1)

### 起きる時間と寝る時間

- (1) 起きる時間(平日)は、前回(18回)以前と比べて午前7時29分以前に起床する者が減少し、午前7時半以降に起床する者が増加しています。また、「決まっていない」者が大幅に増加しています。(図2)

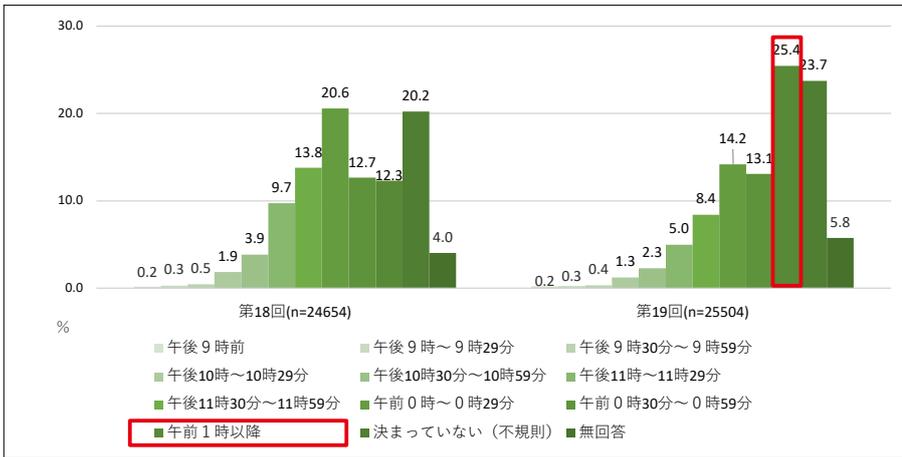
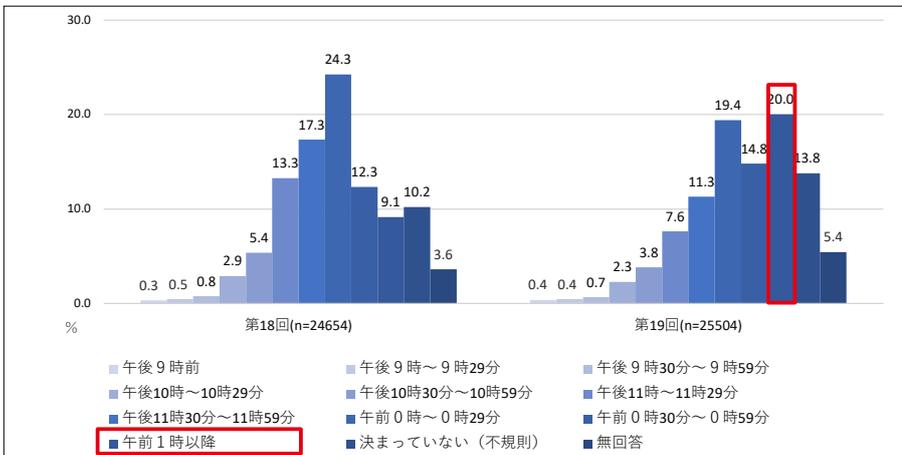
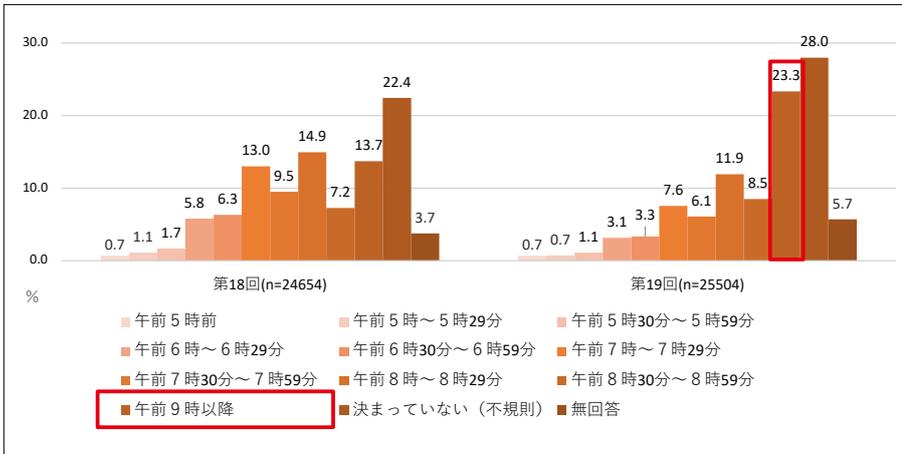
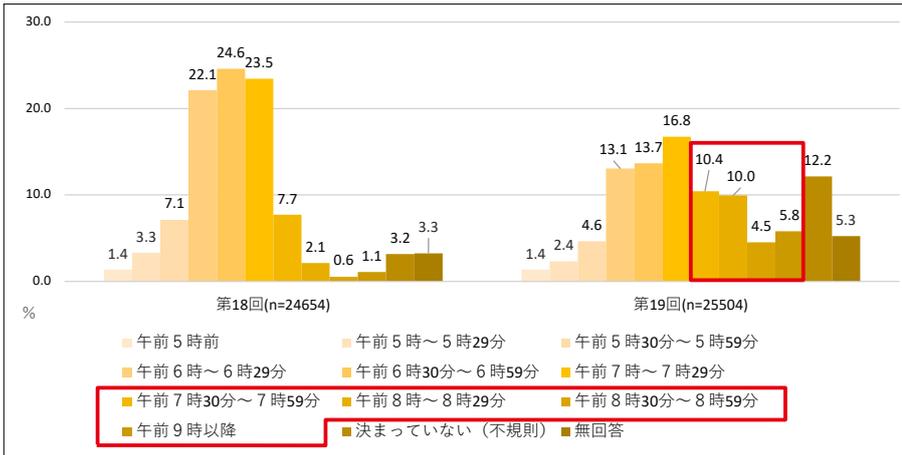
- (2) 起きる時間(日曜)は、前回(18回)以前と比べて午前9時以降に起床する者が大幅に増加しています。(図3)
- (3) 寝る時間は、平日・土曜日ともに、前回(18回)以前と比べて午前1時以降に就寝する者が大幅に増加しています。また、午前0時29分以前に就寝する者は前回(18回)以前と比べて減少しています。(図4)(図5)

○起きる時間(平日)(図2)

○起きる時間(日曜日)(図3)

○寝る時間(平日)(図4)

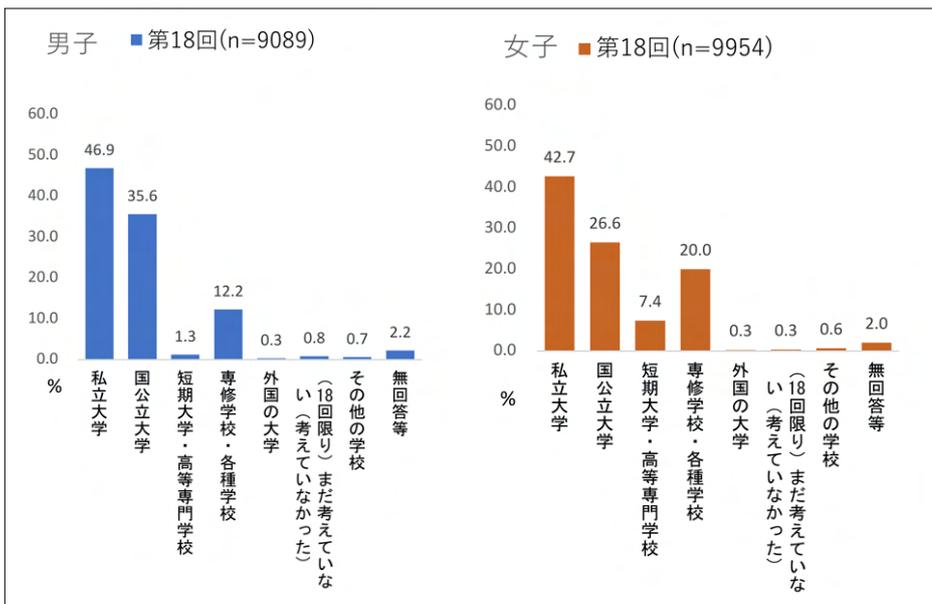
○寝る時間(土曜日)(図5)



## 前回(18回)調査の進学希望先と進学実績

(1) 前回(18回)調査の男子の第一志望の進学希望先は、「私立大学」46・9%、「国公立大学」35・6%、「専修学校・各種学校」12・2%、「短期大学・高等専門学校」1・3%、「外国の大学」0・3%、「(18回限り)まだ考えていない(考えていなかった)」0・8%、「その他の学校」0・7%、「無回答等」2・2%であり、女子の第一志望の進学希望先は、「私立大学」42・7%、「国公立大学」26・6%、「専修学校・各種学校」7・4%、「短期大学・高等専門学校」20・0%、「外国の大学」0・3%、「(18回限り)まだ考えていない(考えていなかった)」0・3%、「その他の学校」0・6%、「無回答等」2・0%であった。

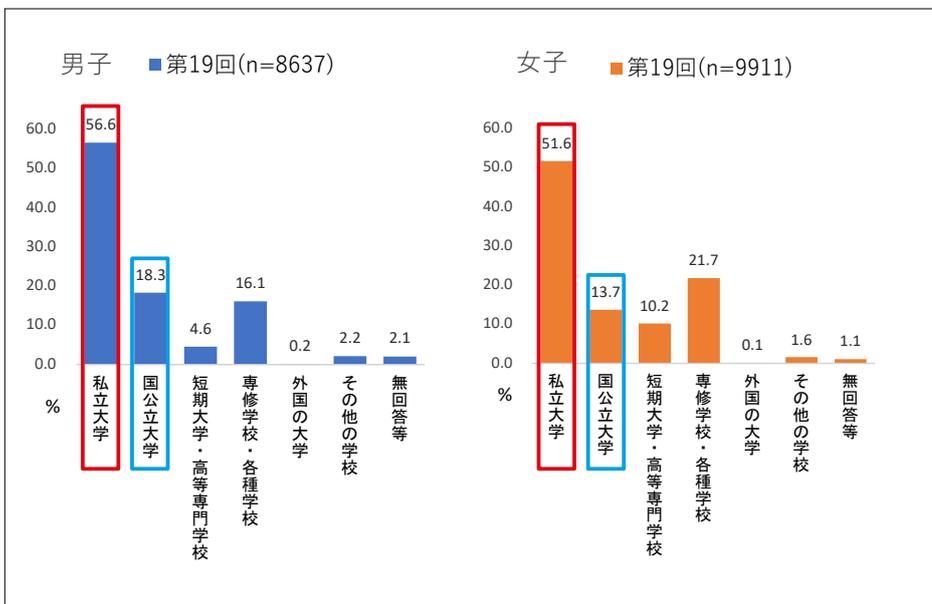
○前回(第18回)調査時の進学希望先(第一志望)(図6)



42・7%、「国公立大学」26・6%、「専修学校・各種学校」20・0%でした。(図6)

(2) 今回(19回)調査の男子の進学実績(現在在学中の学校種)は、「私立大学」56・6%、「国公立大学」18・3%、「専修学校・各種学校」16・1%、「短期大学・高等専門学校」4・6%、「外国の大学」0・2%、「その他の学校」2・2%、「無回答等」2・1%であり、女子の進学実績は、「私立大学」51・6%、「国公立大学」13・7%、「専修学校・各種学校」21・7%、「短期大学・高等専門学校」10・2%、「外国の大学」0・1%、「その他の学校」1・6%、「無回答等」1・1%、「国公立大学」13・7%、「専修学校・各種学校」51・6%、「国公立大学」13・7%、「専修学校・各種学校」16・1%、「短期大学・高等専門学校」4・6%、「外国の大学」0・2%、「その他の学校」2・2%、「無回答等」2・1%であった。

○進学実績(現在在学中の学校種)(図7)



○第一志望の進学希望先別の進学実績(表1)

| 進学先(第19回調査)        | 進学先別の進学実績(第18回調査) |      |       |                  |           |       |      |
|--------------------|-------------------|------|-------|------------------|-----------|-------|------|
|                    | 総数                | 私立大学 | 国公立大学 | 短期大学・高等専門学校(5年制) | 専修学校・各種学校 | 外国の大学 | その他  |
| 総数                 | 100.0             | 56.2 | 17.0  | 7.2              | 18.5      | 0.1   | 0.9  |
| 私立大学               | 100.0             | 93.3 | 1.5   | 1.5              | 3.2       | 0.0   | 0.5  |
| 国公立大学              | 100.0             | 39.3 | 54.1  | 2.7              | 2.9       | 0.0   | 1.0  |
| 短期大学・高等専門学校(5年制)   | 100.0             | 1.7  | -     | 93.8             | 3.7       | -     | 0.8  |
| 専修学校・各種学校          | 100.0             | 1.6  | 0.2   | 2.9              | 93.8      | -     | 1.5  |
| 外国の大学              | 100.0             | 7.4  | 7.4   | 14.8             | 3.7       | 48.1  | 18.5 |
| まだ考えていない(考えていなかった) | 100.0             | 24.4 | -     | 56.4             | 10.3      | -     | 9.0  |
| その他                | 100.0             | 42.7 | 7.3   | 31.3             | 15.6      | -     | 3.1  |
| 男子                 | 100.0             | 59.6 | 19.9  | 3.9              | 15.2      | 0.1   | 1.2  |
| 私立大学               | 100.0             | 92.6 | 1.7   | 0.9              | 3.9       | 0.1   | 0.7  |
| 国公立大学              | 100.0             | 37.7 | 55.4  | 3.3              | 2.3       | 0.1   | 1.2  |
| 短期大学・高等専門学校(5年制)   | 100.0             | 2.1  | -     | 84.5             | 10.3      | -     | 3.1  |
| 専修学校・各種学校          | 100.0             | 1.8  | 0.3   | 3.0              | 93.0      | -     | 1.8  |
| 外国の大学              | 100.0             | 13.3 | 6.7   | 13.3             | -         | 40.0  | 26.7 |
| まだ考えていない(考えていなかった) | 100.0             | 21.1 | -     | 64.9             | 3.5       | -     | 10.5 |
| その他                | 100.0             | 44.9 | 10.2  | 22.4             | 18.4      | -     | 4.1  |
| 女子                 | 100.0             | 53.3 | 14.7  | 9.9              | 21.3      | 0.1   | 0.7  |
| 私立大学               | 100.0             | 93.9 | 1.3   | 2.0              | 2.5       | -     | 0.4  |
| 国公立大学              | 100.0             | 40.9 | 52.7  | 2.2              | 3.5       | -     | 0.7  |
| 短期大学・高等専門学校(5年制)   | 100.0             | 1.7  | -     | 95.1             | 2.7       | -     | 0.5  |
| 専修学校・各種学校          | 100.0             | 1.4  | 0.2   | 2.9              | 94.2      | -     | 1.3  |
| 外国の大学              | 100.0             | -    | 8.3   | 16.7             | 8.3       | 58.3  | 8.3  |
| まだ考えていない(考えていなかった) | 100.0             | 33.3 | -     | 33.3             | 28.6      | -     | 4.8  |
| その他                | 100.0             | 40.4 | 4.3   | 40.4             | 12.8      | -     | 2.1  |

注: 第19回調査において進学実績に係る回答を得た者を対象とし、その対象者について第18回調査の第一志望の進学希望先の回答別に進学実績を関連付けている。また、網掛けは、第一志望の進学希望先と進学実績が同じであった者の割合である。

(3) また、前回(18回)調査で「国公立大学」が第一志望であった者のうち、54・1%は第一志望と同じ「国公立大学」に進学しているが、39・3%は「私立大学」へ進学しています。(表1)

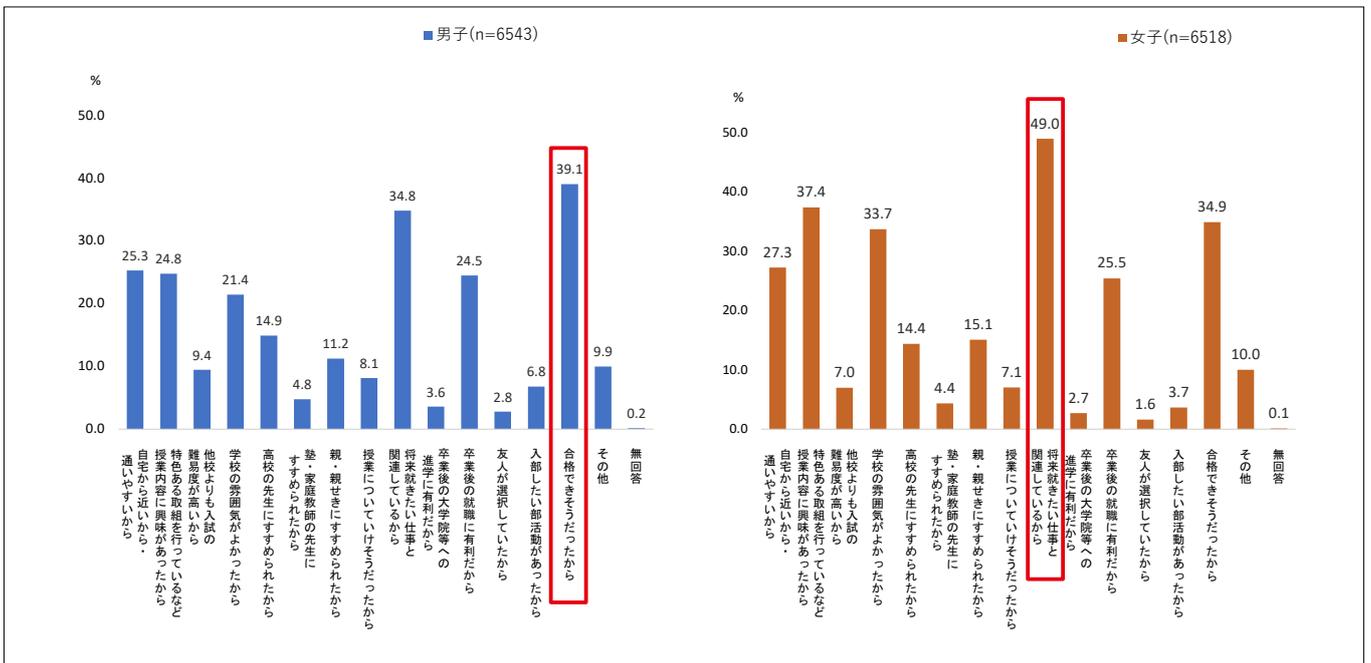
各種学校」21・7%となっていました。(図7)

### 大学在学者の学校選択理由 (複数回答)について

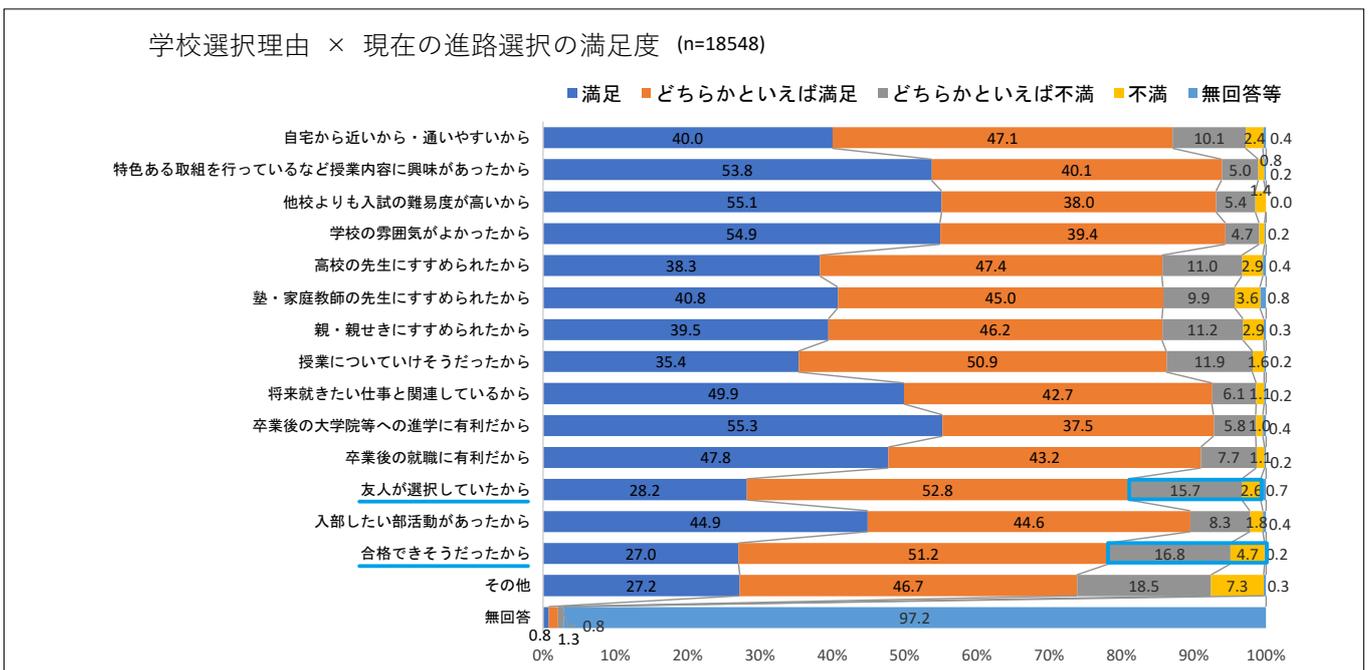
大学の在学者について、学校選択理由の割合をみると、男子は「合格できそうだったから」(39・1%)が最も高く、女子は「将来就きたい仕事と関連しているから」(49・0%)が最も高くなっています。(図8)

### 学校選択理由(複数回答)別の 進路選択の満足度

学校選択理由に関わらず、現在の進路選択について「満足」「どちらかといえば満足」と回答した者の合計割合は全体的に高い傾向にあるが、「合格できそうだったから」及び「友人が選択していたから」とした者については、現在の進路選択について「不満」「どちらかといえば不満」と回答した者の合計割合がやや高く、いずれも15%を超えています。(図9)



○大学在学者の学校選択理由(複数回答)(図8)



○学校選択理由(複数回答)別の進路選択の満足度(図9)

### アルバイト等の実施状況について

アルバイト(パートタイム・内職含む)等をしている在学者の割合は、男子については約3分の2(65・2%)、女子については約4分の3(74・5%)となっており、調査対象者の多くが高校3年生であった前回(18回)調査時よりも大幅に増加しています。(図10)

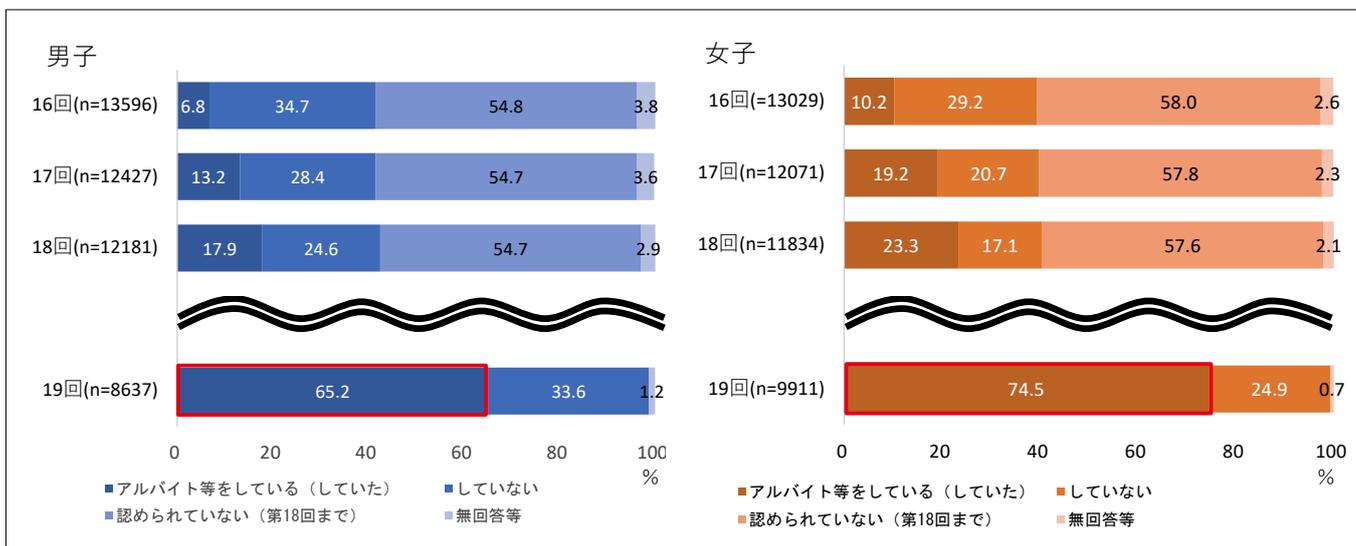
### アルバイトをした理由について (複数回答)

(1) アルバイト等をした理由について、前回(第18回)と割合の差を比べた場合は「良い経験になると思ったから」が男女とも増加幅が最も大きくなっています。(男子50・0%↓55・5%、女子59・2%↓64・4%)(図11)

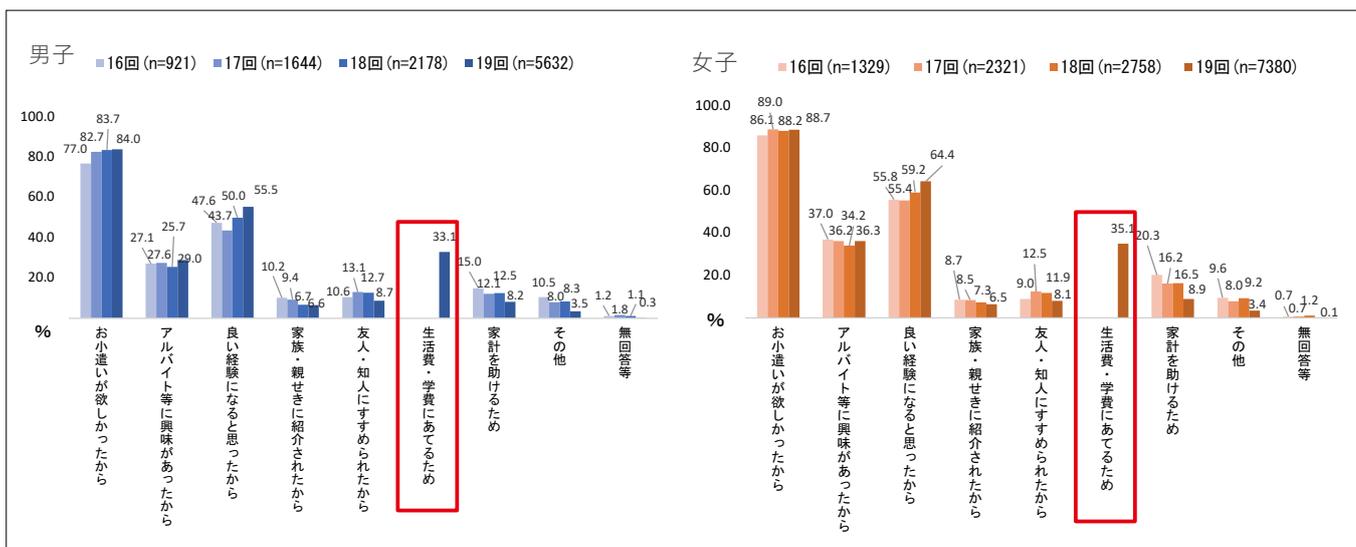
(2) 今回(第19回)より選択肢としている「生活費・学費にあてるため」と回答した者の割合は、男女とも約3分の1(男子33・1%、女子35・1%)となっています。(図11)

このほか、調査結果の詳細は、「21世紀出生児縦断調査」のページに掲載しています。

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/chousa08/21seiki/kekka/mext\\_01640.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa08/21seiki/kekka/mext_01640.html)



○アルバイト(パートタイム・内職含む)等の実施状況(図10)



○アルバイト等をした理由(複数回答)(図11)

(注) 本記事に掲載の数値は小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで記載しているため、内訳の合計が総数に合わない場合があります。

# 文部科学広報



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

文部科学広報 令和3年8月号 No.261

(発行・著作)

文部科学省大臣官房総務課広報室

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2

TEL : 03-5253-4111 (代表)

URL : <https://www.mext.go.jp/>

E-mail : [mextjnal@mext.go.jp](mailto:mextjnal@mext.go.jp)